

(3) 調査結果

調査結果については、調査位置図、季節別出現結果表、重要な種及び注目すべき生息地の確認地点、状況等について図表等にまとめる。

ア 海生動物の確認状況

現地調査で確認された種と文献調査で確認された種を合わせて、海生動物確認種リストとして一覧表にとりまとめる。

海生動物確認種リストは、種類数が多い場合は、調査地域全体の海生動物の出現状況を把握するために、海生動物の調査項目ごとに優先種、分類種別（綱のランク等）に確認種数等をまとめ、調査地点、調査時期ごとに整理し季節別出現状況を一覧表にまとめる。

海生動物確認種リストの作成に当たっては、科等の配列順序や種名について植物分類学上広く認められている文献等に準拠し、使用した文献名を記述する。科の配列順序、種名（和名、学名）については「日本産野生生物目録一本邦産野生動植物の種の現状－脊椎動物編」（環境庁1993）、「日本産野生生物目録一本邦産野生動植物の種の現状－無脊椎動物編Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」（環境庁1993、1995、1999）、「日本海洋プランクトン図鑑」（保育社1991）等を参考にする。

調査地全体の海生動物の出現状況を把握するために、海生動物の調査項目ごとに、優先種、分類群別（門、科等のランク）に確認種数等をまとめ、調査地点、調査時期ごとに整理して一覧表にまとめる。

また、調査結果を基に調査地域の海生動物相の特徴についてまとめる。

イ 主要な海生動物の分布位置と生息状況

主要な海生動物の確認地点を各調査項目ごとに図示し、分布状況を把握する。

出現種の個体数、湿重量は、分類群（門、科等のランク）ごとにまとめ、分類群ごとの組成を把握する。また、主要な海生動物の生育状況、生育環境の特徴を確認地点ごとに表に整理する。

これらの結果を基に、調査地域の海生動物の生息状況の特徴についてまとめる。

ウ 重要な種と重要な種の確認地点位置

重要な種が確認された場合には、種名、選定理由、選定基準、生息状況の概要、分布状況等について一覧表に整理し、確認地点位置図を作成する。天然記念物の場合は、指定年月日についても記載する。

エ 注目すべき生息地と注目すべき生息地確認位置

注目すべき生息地が確認された場合は、主な生息種、選定理由、選定基準、生息地の概要について、一覧表に整理し、注目すべき生息地確認位置図を作成する。

オ 干潟、藻場、珊瑚礁等の分布と生息環境の状況

干潟、藻場、珊瑚礁等の分布状況を図に示し、生息する海生動物や生息環境の状況についてまとめる。

なお、以下に「富郷ダム工業用水取水設備計画に係る環境影響評価書 平成13年3月大王製紙(株)・丸住製紙(株)」における「海生動物」の調査の事例を示す。

(例)

ロ. 動物プランクトン

動物プランクトンの調査結果（網別組成と優占種）は、表5-41に示すとおりである。

全地点とも大半を甲殻綱のcopepodite of *Oithona*、copepodite of *Paracalanus*、nauplius of *Copepoda* が占めており、種としては甲殻綱の*Oithona similis*、*Penilia avirostris*が目立っている。また、今回の調査地点に近い位置で調査（平成10年）された「川之江市西部臨海土地造成計画調査」（平成11年、川之江市建設部港湾課）」においても、春季及び夏季で同じく甲殻綱のcopepodite of *Oithona*、nauplius of *Copepoda*が優占しており、本調査と同じ傾向がみられた。

表5-41(1) 動物プランクトンの調査結果（網別組成と優占種）

網	St. 1		St. 2			
	個体数	種類数	個体数	種類数		
繊毛虫綱	1.2	1	0.7	1		
ヒドロ虫綱	1.2	1	—	—		
輪虫綱	—	—	—	—		
甲殻綱	331.4	12	70.0	10		
現生矢虫綱	1.8	1	—	—		
尾虫綱	—	—	—	—		
軟甲綱	2.4	1	0.4	1		
浮遊幼生	49.2	7	27.7	6		
総計	387.2	23	98.8	18		
優占種	種名	%	個体数	種名	%	個体数
	copepodite of <i>Oithona</i>	31.6	122.3	copepodite of <i>Oithona</i>	25.9	25.6
	copepodite of <i>Paracalanus</i>	16.3	63.1	nauplius of <i>Copepoda</i>	15.2	15.0
	nauplius of <i>Copepoda</i>	13.6	52.7	larva of <i>Bivalvia</i>	14.3	14.1
				<i>Penilia avirostris</i>	11.5	11.4
				copepodite of <i>Paracalanus</i>	11.4	11.3

注) 単位は個体数/10リットル、優占種は優占率が10%以上のものを示す。

表5-41(2) 動物プランクトンの調査結果（網別組成と優占種）

網	St. 3		St. 4			
	個体数	種類数	個体数	種類数		
繊毛虫綱	14.3	2	9.9	3		
ヒドロ虫綱	0.4	1	4.6	2		
輪虫綱	—	—	2.6	1		
甲殻綱	177.9	11	279.4	14		
現生矢虫綱	0.8	1	3.3	1		
尾虫綱	4.2	1	0.7	1		
軟甲綱	0.4	1	2.6	1		
浮遊幼生	27.6	9	76.5	6		
総計	225.6	26	379.5	29		
優占種	種名	%	個体数	種名	%	個体数
	copepodite of <i>Oithona</i>	26.9	60.7	copepodite of <i>Oithona</i>	18.3	69.6
	copepodite of <i>Paracalanus</i>	12.9	29.0	nauplius of <i>Copepoda</i>	14.8	56.0
	nauplius of <i>Copepoda</i>	10.2	23.1	<i>Oithona similis</i>	11.5	43.5
	<i>Oithona similis</i>	10.0	22.6	copepodite of <i>Paracalanus</i>	11.0	41.7

注) 単位は個体数/10リットル、優占種は優占率が10%以上のものを示す。

資料：富郷ダム工業用水取水設備計画に係る環境影響評価書 平成13年3月 大王製紙(株)・丸住製紙(株)

(例)

ハ. 底生生物

底生生物の調査結果（網別組成と優占種）は、表5-42に示すとおりである。

個体数では、有機汚濁海域の指標種である多毛綱の*Lumbrineris longifolia* や二枚貝のシズクガイが優占し、この水域が富栄養化していることを示している。出現種類数（4地点合計）は30種となっている。湿重量では、二枚貝のトリガイが目立っている。

また、今回の調査地点に近い位置で調査（平成10年）された「川之江市西部臨海土地造成計画調査」（平成11年、川之江市建設部港湾課）」と比較（4地点合計）すると、個体数は、平成10年調査では184~236個/0.1㎡、今回調査では207個/0.1㎡、種類数は、平成10年調査では24~59種、今回調査では30種、個体数からみた優占種も平成10年調査でも*Lumbrineris longifolia* が優先しており、大きな変化は見られない。

表5-42(1) 底生生物の調査結果（網別組成と優占種：個体数）

綱	St. 1		St. 2		St. 3		St. 4					
	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数				
腹足綱	1	1	1	1	—	—	—	—				
二枚貝綱	1	1	—	—	5	1	8	2				
多毛綱	11	3	132	12	5	5	20	5				
甲殻綱	—	—	4	4	1	1	—	—				
その他	3	2	9	2	3	2	3	1				
総計	16	7	146	19	14	9	31	8				
優占種	種名	%	個体数	種名	%	個体数	種名	%	個体数	種名	%	個体数
	<i>Lumbrineris longifolia</i>	50.0	8	<i>Lumbrineris longifolia</i>	34.9	51	シズクガイ	35.7	5	<i>Lumbrineris longifolia</i>	51.6	16
	ヒモムシ類	12.5	2	シシボウガイ科	11.0	16	ヒモムシ類	14.3	2	シズクガイ	22.6	7
	<i>Glycera convoluta</i>	12.5	2									

注) 単位は個体数/0.1㎡、優占種は優占率が10%以上のものを示す。

表5-42(2) 底生生物の調査結果（網別組成と優占種：湿重量）

綱	St. 1			St. 2			St. 3			St. 4		
	種名	%	湿重量	種名	%	湿重量	種名	%	湿重量	種名	%	湿重量
腹足綱		0.05			0.61			—			—	
二枚貝綱		0.20			—			0.15			15.40	
多毛綱		0.24			1.67			0.03			0.31	
甲殻綱		—			1.12			0.03			—	
その他		0.20			1.20			0.09			0.05	
総計		0.69			4.60			0.30			15.76	
優占種	種名	%	湿重量	種名	%	湿重量	種名	%	湿重量	種名	%	湿重量
	コマクサリスレガイ	29.0	0.20	ヒモムシ類	25.7	1.18	シズクガイ	50.0	0.15	トリガイ	97.1	15.30
	ヒモムシ類	27.5	0.19	テッポウエビ	15.9	0.73	ヒモムシ類	26.7	0.08			
	<i>Glycera convoluta</i>	24.6	0.17	<i>Lumbrineris longifolia</i>	13.3	0.61	エビシヤコ	10.0	0.03			

注) 単位は湿重量(g)/0.1㎡、優占種は優占率が10%以上のものを示す。

資料：富郷ダム工業用水取水設備計画に係る環境影響評価書 平成13年3月 大王製紙(株)・丸住製紙(株)